

HAMON

波紋 は文化財情報誌！

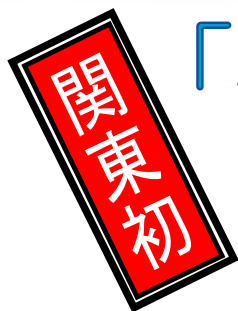
歴史・文化・動植物など
身近な話題として

今、あなたのお手もとに！

Vol.14(2011) 板倉町教育委員会



国選定の重要文化的景観



「利根川・渡良瀬川
合流域の水場景観」

平成23年9月21日 国選定となりました。

板倉町の水場景観が、平成23年9月21日に国の重要文化的景観に選定されました。

選定名称「利根川・渡良瀬川合流域の水場景観」



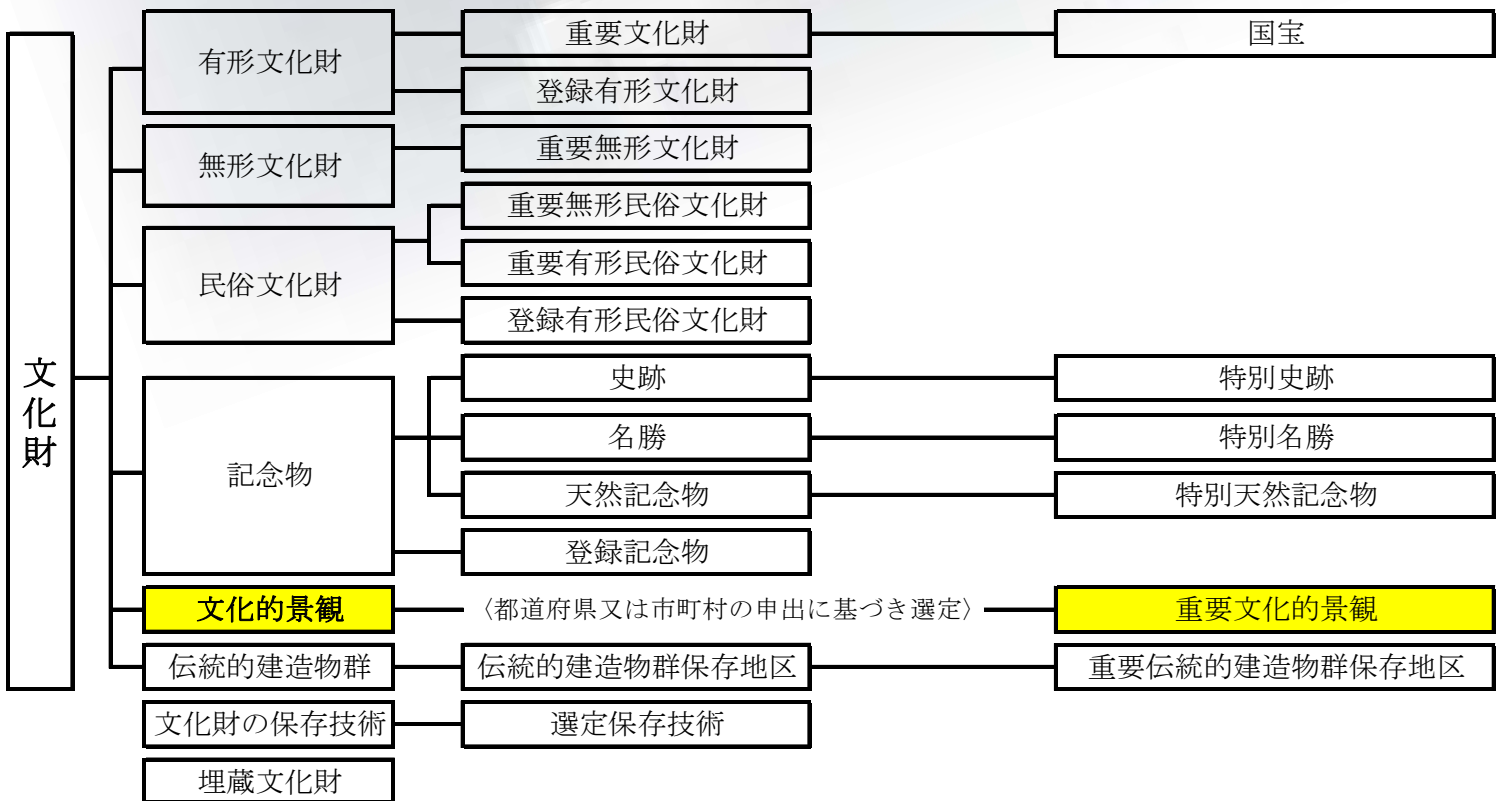
文化的景観とは？

地域における人々の生活又は生業及び当該地域の風土により形成された景観地で我が国民の生活又は生業の理解のために欠くことのできないもの



文化的景観も文化財

平成16年(17年施行)の文化財保護法の改正により、文化財となる。





活用し、創造し、未来へつなげましょう！

何気なく見ている風景ですが、時代の変化を受け入れながら作られてきた貴重な風景です。先人たちが築いてきたこれらの素晴らしい文化的景観を資産としてまちづくりに活かすとともに、子や孫に引き継いでいきましょう。



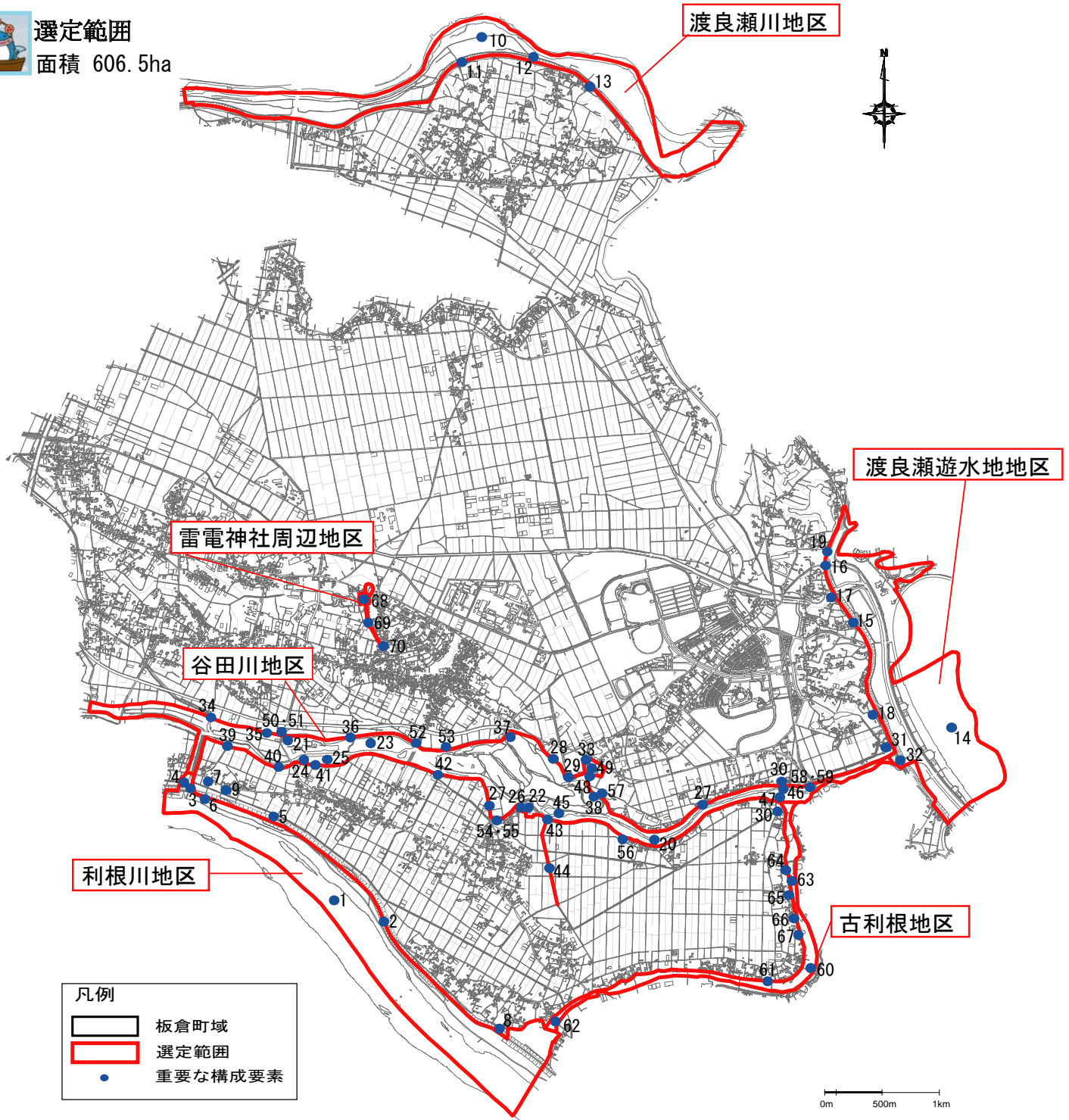
全国の国選定重要文化的景観（平成23年9月21日現在）

- アイヌの伝統と近代開拓による沙流川流域の文化的景観（北海道沙流郡平取町）
- 遠野 荒川高原牧場（岩手県遠野市）
- 一関本寺の農村景観（岩手県一関市）
- 金沢の文化的景観 城下町の伝統と文化（石川県金沢市）
- 姨捨の棚田（長野県千曲市）
- 近江八幡の水郷（滋賀県近江八幡市）
- 高島市海津・西浜・知内の水辺景観（滋賀県高島市）
- 高島市針江・霜降の水辺景観（滋賀県高島市）
- 宇治の文化的景観（京都府宇治市）
- 檜原の棚田（徳島県勝浦郡上勝町）
- 遊子水荷浦の段畑（愛媛県宇和島市）
- 四万十川流域の文化的景観 下流域の生業と流通・往来（高知県四万十市）
- 四万十川流域の文化的景観 上流域の農山村と流通・往来（高知県高岡郡中土佐町）
- 久礼の港と漁師町の景観（高知県高岡郡中土佐町）
- 四万十川流域の文化的景観 上流域の山村と棚田（高知県高岡郡梶原町）
- 四万十川流域の文化的景観 源流域の山村（高知県高岡郡津野町）
- 四万十川流域の文化的景観 中流域の農山村と流通・往来（高知県高岡郡四万十町）
- 蕨野の棚田（佐賀県唐津市）
- 平戸島の文化的景観（長崎県平戸市）
- 小値賀諸島の文化的景観（長崎県北松浦郡小値賀町）
- 通潤用水と白糸台地の棚田景観（熊本県上益城郡郡山都町）
- 天草市崎津の漁村景観（熊本県天草市）
- 小鹿田焼の里（大分県日田市）
- 田染荘小崎の農村景観（大分県豊後高田市）
- 佐渡西三川の砂金山由来の農山村景観（新潟県佐渡市）
- 奥飛鳥の文化的景観（奈良県高市郡明日香村）
- 佐世保市黒島の文化的景観（長崎県佐世保市）
- 五島市久賀島の文化的景観（長崎県五島市）



選定範囲

面積 606.5ha



重要文化的景観の選定範囲図

凡例

- 板倉町域
- 選定範囲
- 重要な構成要素

重要な構成要素

1 利根川	2 利根川堤防	3 谷田川第二排水機場	4 谷田川排水機場	5 板東樋管後
6 水天宮・風天宮	7 大杉大明神	8 水神宮・風神宮(島)	9 飯野河岸銘庚申塔	10 渡良瀬川
11 渡良瀬川堤防	12 頭沼揚水機場	13 録事尊	14 渡良瀬遊水地	15 渡良瀬川遊水地堤防
16 海老瀬排水樋管	17 東部第一排水機場	18 東部第二排水機場	19 決壊口跡	20 谷田川
21 蛭田沼(キリゴミ)	22 肘曲池	23 柳山	24 川田	25 ヨシ原(川田東)
26 ヨシ原(肘曲池)	27 谷田川堤防	28-1 旧古河往還	28-2 五百間堤	28-3 引堤
29-1 小保呂排水機場	29-2 小保呂樋門	30 大箇野サイフォン	31 大箇野排水機場	32 谷田川第一排水機場
33 沼除堤	34 鶴生田川第一樋門	35 天神下樋門	36 花和田樋門	37 宮の前樋門
38 上新田樋門	39 飯野車口樋門	40 松ノ木樋門	41 念行樋門	42 岡樋門
43 北根樋門	44 北根用水路	45 八間樋頭首工	46 通リ前橋	47 北坪東橋
48 水塚	49 水塚	50 水神塔・道標	51 延命地藏尊	52 浅間神社
53 水天宮・風天宮	54 水神塔	55 馬頭観音	56 勝軍地藏	57 青龍大神
58 地藏尊	59 阿弥陀如来坐像	60 古利根川	61 古利根川堤防	62 天保の締め切り跡
63 小左エ門樋門	64 水塚	65 水塚	66 水塚	67 水神宮
68 雷電神社	69 雷電神社参道	70 道標		



知恵が息づく「利根川・渡良瀬川合流域の水場景観」

今から約170年前まで、板倉町の東側で利根川と渡良瀬川が合流していました。そのため、古くからオオミズが多い地域で、豊かな土壌・生態系がはぐくまれてきました。そして囲堤で囲まれた中で人々は、知恵や文化を築いてきました。自然堤防上に造られた沼除堤や水防建築の「水塚」、低地農法として現在も「川田」(掘上げ田)、そして薪をとるための「柳山」などさまざまな知恵が生きています。



録事尊



合の川橋下の地藏尊
阿弥陀如来坐像



通り前橋 (沈下橋)



ヤナギ山



吾田川の中州にあります。昭和の初期まで冬になると押し水をして、燃料を得るために産林していました。ほとんどがアケボノ木(国一オトコガサ)です。昭和30年代後半までは薪として利用していました。



古利根川 (水路)
利根川が流れていました。「あいの川」と呼ばれ「関ノ川」「合の川」などと書きます。現在は「フルトネガワ」と呼ばれています。今も水取や貯水池(土野池)と埼玉屋(武蔵屋)との境界です。



五百間土手 (堤)
ゴルフ場北東部の堤を指します。古文書によく出てくる地名です。写真は土築(築堤354年録)より撮影しています。



水塚



飯野の川田

渡良瀬川を利用した掘上げ田



水に浸かた川田

周囲に水を張り、その土で高く盛り上げた田を耕作します。耕作面積を増やすための低地の人々の知恵です。しかし、大雨が降り、吾田川の水位が上がるたびに水に浸かっています。

参考：平成17年10月23日『水がはぐくんだぶんか』

平成21年3月31日『みずば絵巻〜川と道〜』